



Nambu Dental Clinic

DESIGN WORKS

なんば歯科医院／ビジュアルデザイン＆ディレクション

**グラフィック、空間、WEB。
デザインの三位一体で、患者へ安心感。**

田中雄一郎／グラフィックデザイナー、ブランディングディレクター

今年の初め、不意に侘び寂びの世界を堪能したくなり、京都は樂美術館を訪れた。樂美術館には樂家歴代の作品や茶道工芸品、古文書などが収蔵・展示されており、樂家初代長次郎の「黒楽茶碗銘『面影』」はあの千利休の美意識の最高峰と称されている。残念ながら今回は巡り合えなかったが樂家450年の作陶世界を覗き味できた。

千利休と言えば我々の世界では、日本で最初のクリエイティブディレクターと言われている。茶道具をはじめ床の間、花入、裂や扇の紋様の見立てから茶会などのイベントプロデュースまで利休独自の卓越した審美眼を通して、さまざまな新しい試みを茶の湯に持ち込んだ。中でも利休は待庵に代表される茶室の普請においても画期的な変革を行っている。それまでは四畳半を最小としていた茶室に、庶民の間でしか行われていなかった三畳、二畳の茶室を探り入れたり、窓を採用し茶室内の光を自在に操り必要な場所を必要なだけ照らすなど空間をより緊密にした。また単なる通路に過ぎなかった露地も、積極的な茶の空間とした。こうして茶の湯において茶道具の見立てから茶室の空間に至るまで利休の美意識と価値観で総合的に差配し、客と一期一会で対峙し得るもてなしの場を作り上げた。

大正14年創業、90年以上続く倉敷市児島のなんば歯科医院。院長の交代を機にロゴマークとウェブサイトの作成及びリノベーションを行った。

歯医者さん。子供の頃はもちろん、大人になった今でもどうしても怖いイメージが付き纏い、正直なるべくお世話になりたくない。そうした多くの人が感じる不安や緊張感を取り除き、アットホームでリラックスできる雰囲気づくりをして、新たな患者にも来もらうことが今回院長の狙いであり、デザインのポイントとなった。

ロゴマークは「n」をモチーフに歯の並びを表現。多色を用いることで楽しさや明るさ、親しみを表現。また円を重ねることで患者との入念な対話や信頼関係、地域との密着を表現。そして院長が4代目ということで、今まで先代が培ってきた歴史と未来へのつながりを表現している。

空間は基本的に化粧板やビニル床タイルなど人工材料は使わず、木を多用している。我々日本人は不思議と木に触れると安心する。古代から集落や歴史的建築物、庶民の農耕具や生活道具にも木は使われてきたからであろう。木に対する安心感は古代から日本人のDNAに連続と刻み込まれているようだ。谷崎潤一郎も「陰翳礼讃」の中で病院の空間には柔らかさが必要であると語っており、谷崎自身、和の空間がある歯医者へ好んで出かけたようである。

エントランスは明るく開放的で患者が気軽にに入れるようにガラス張りとした。また照明器具を少し工夫することで和やかさを演出。「居は気を移す」と言われているが、患者からの評判はもちろん、院長やスタッフも院内の雰囲気が明るくなり、仕事に対するモチベーションの向上を感じているようだ。目立てば良いと我が物顔で景観を阻害しかねない看板を作るのではなく、建物自体が通行人から目を引くような美しい佇まいこそ、最良の看板であり宣伝ではないか。

また不安感を募らせる患者が一番頼りにするのはやはりウェブサイトだ。診療時間はもとより、先生やスタッフの人となり、医院内部の様子や診察風景などは歯医者を選ぶ決め手となる大切なツールであり、医院側としても新規の患者を獲得するには欠かせない存在である。

今回ウェブサイトには商業広告的に演出されたモデルや市販されている画像素材集を使うのではなく、スタッフや患者の自然体で表情豊かな生の写真を使用しており、患者一人ひとりを大切に診療するという強い想いを表現している。

リニューアルから一年が経ち新規の患者が目に見えて増加しているようだ。ロゴマークやサインなどのビジュアルデザイン、空間、そしてウェブサイト。患者に安心感を与える観点では、それぞれの機能だけはどうしても弱いが、今回これらを三位一体で有機的に運動させることで、1+1+1=5にも時には10にもなるということを実証してくれた。利休が美意識を集結させ一期一会の精神で客をもてなしたように、デザインの連動により患者一人ひとりを大切にする想いを可視化できた。

AD-D/田中雄一郎 空間デザイン／丹羽建築設計事務所 WEBデザイン／三宅真人(トライマンデザイン)

田中雄一郎／Yuichiro Tanaka www.quadesign-style.com

QUADESIGN style (クオデザインスタイル)代表

1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、都市計画コンサルタントを経て、2004年妻・園子とともにQUA DESIGN style設立。同時にデザインを独学。現在岡山を拠点に活動し、教育・医療機関、公共施設、美術展、交通・建築・建設、農業、アパレル、町など様々な分野のブランディングを手掛ける。主な仕事に岡山大学シンボルデザイン、倉敷市立短期大学ロゴマーク、福武教育文化振興財団CI、岡山後楽園バスVI、倉敷紀念病院III、出石町VI、野の花農園プロモーションなど。東京TDC賞PrizeNominee、JAGDA賞バネートなど。共著に「ロゴデザインの現場—事例で学ぶデザイン技法としてのブランディング」(MdN コーポレーション)



なんば歯科医院 児島 <https://dental-namba.com/>

